

NPO法人 DOG DUCA のご紹介



— 活動20年以上の実績 —

DOG DUCA(ドッグデュッカ)は、プロドッグトレーナーのいる動物愛護団体です。殺処分にされやすい、吠える・咬みつくなどが理由で飼育放棄された犬を保護してトレーニングしています。2001年以来、1000頭以上の犬を保護&譲渡してきました。

— シニアドッグ・サポーター —

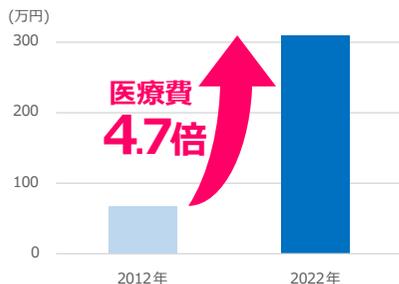
近年は、高齢者と暮らしていた行き場のない犬が増えたため、そういった高齢犬を保護し、元気な高齢者に新しい家族になってもらう、“シニアドッグ・サポーター制度”を作りました。高齢者と高齢犬が支え合う、人と犬のよりよい共存社会を目指します。



— 保護活動の課題と現実 —

高齢者が限界まで飼っていた犬は、健康状態がひどいことが多く、譲渡まで治療に時間がかかったり、譲渡できないこともあります。そのため、ここ10年で医療費が4.7倍、施設に残る犬の数が4.2倍に。活動を継続するのが苦しい状態です。

医療費の変化 (2012→2022年)



講演依頼・支援・里親の相談はコチラまで
特定非営利活動法人 DOG DUCA(ドッグデュッカ)

名古屋市守山区金屋1-23-26

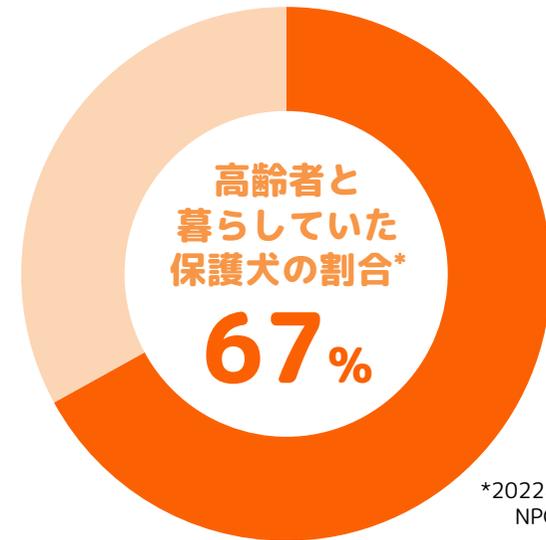
☎ 052-795-5003 (10:00~18:00)

<https://senior.dogduca.com>

詳細は
コチラから



ご存知ですか？
保護犬の半数以上が
高齢者と暮らしていた犬です



*2022年度
NPO法人DOG DUCA実績



DOG DUCA

？ どうして？ 保護犬が生まれる仕組み

かつて

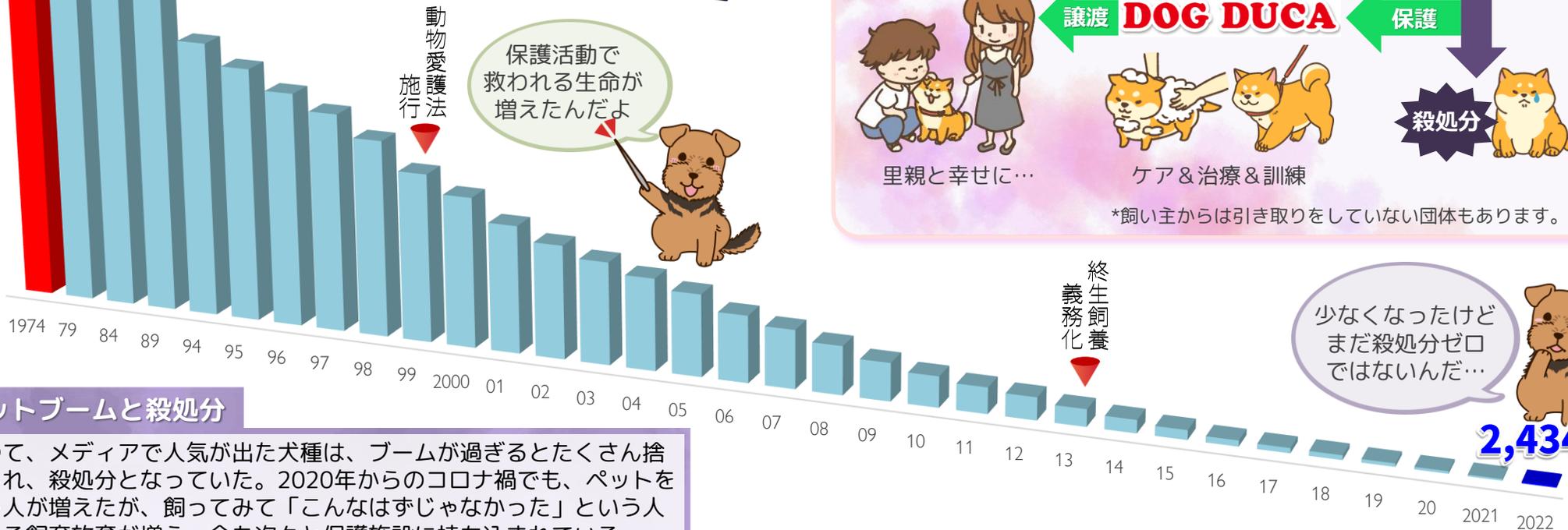
1950年に「狂犬病予防法」が施行され、狂犬病まん延を予防するため、捕まえた犬は保健所で殺処分されていました。それは1957年に狂犬病が撲滅した後も続き、1974年は116万頭もの犬が殺処分されました※。

116万頭※

この時代は、保健所に連れて行かれたらほぼ100%殺処分だったんだ



全国の犬の殺処分数の推移※



保護活動で救われる生命が増えたんだよ



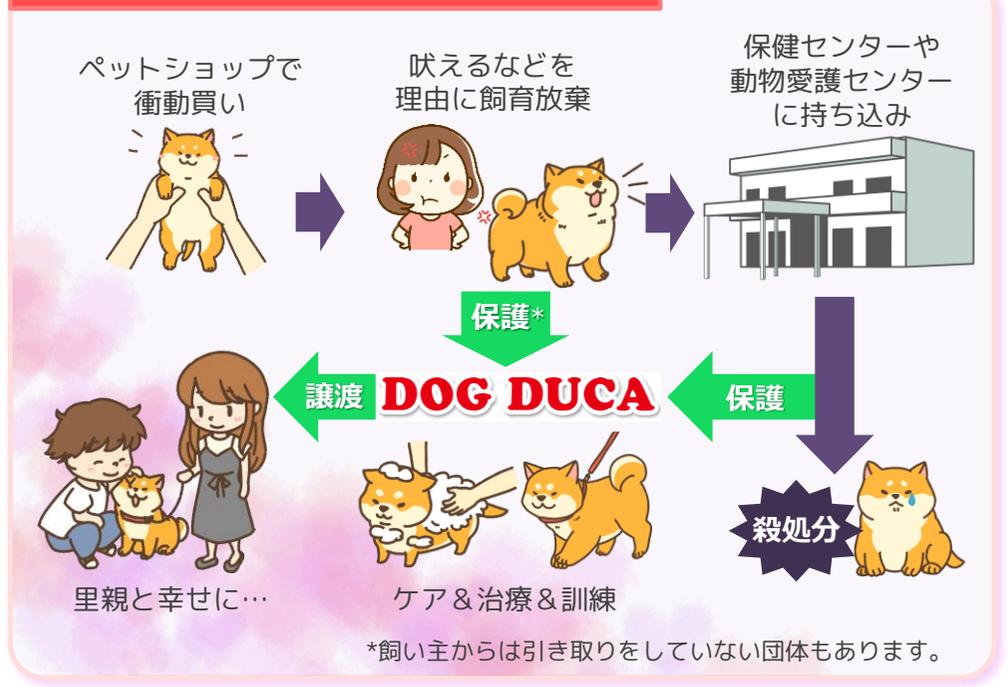
ペットブームと殺処分

かつて、メディアで人気が出た犬種は、ブームが過ぎるとたくさん捨てられ、殺処分となっていた。2020年からのコロナ禍でも、ペットを飼う人が増えたが、飼ってみて「こんなはずじゃなかった」という人による飼育放棄が増え、今も次々と保護施設に持ち込まれている。

近年

殺処分される犬猫を保護して譲渡するボランティア（保護活動）が全国で広がりました。さらに2013年の動物愛護法改正により、保健センターや動物愛護センターが飼い主からの引き取りを拒否できるようになり、2021年度には殺処分される犬が3千頭を割り込みました※。

犬の保護活動の流れ (DOG DUCAの例)



*飼い主からは引き取りをしていない団体もあります。

少なくなったけどまだ殺処分ゼロではないんだ...



2,434頭※

そして今… 高齢者と暮らしている犬の危機

終生飼養の原則により、動物を捨てるのが**犯罪**になりました。そのため、どんなに飼いつけるのが難しい人でも、引き取り手が現れない限り、無理をしても飼いつけなければいけない現実があります。

しかしその結果、不幸になってしまった犬が少なくありません。DOG DUCAにはそういった保護犬が集まってきます。

終生飼養が原則です。引き取りなら殺処分です



行政

引き取り先が見つからない

センターからしか保護しません



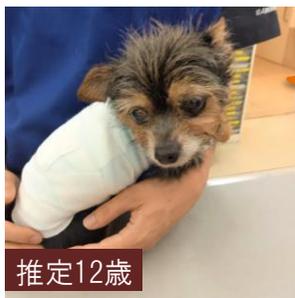
保護施設



推定15歳

飼い主が戻らず、自分の足をかじり続けた

単身の高齢者が救急搬送で長期入院し、医師から保護依頼。知り合いが1週間に1回だけエサをあげにきていたが、ストレスのためか、自分の足をかじり続けて足の骨がむき出し状態に。保護後足を切断。最後は寝たきりになり、保護して1年半後に死亡。



推定12歳

飼い主が孤独死。1ヶ月置き去りだった

知り合いが飼い主と連絡がつかないと警察に連絡したところ、孤独死して2週間が経過していた。飼い主の親は認知症で入所中で、所有権の移動が進まず、電気も点いていない家に約1ヶ月取り残された。一命は取り留めたが、継続的な治療が必要に。



推定13歳

2ヶ月間サークルの中に放置された

飼い主が体調を崩して入院し、犬の苦手な親族がサークルの中で2頭を2ヶ月間放置。フードだけは与えていたものの、糞尿の付いた毛がのどにつまって肺機能が低下し、1頭は保護後すぐに死亡。1頭も1年後に治療の甲斐なく死亡した。

*年齢は保護時。書類が残されていないため、正確な誕生日が不明なことが多い。



11歳

譲渡が難しく、引き取りを断られ続けた

高齢の飼い主がワガママを許してきたために、気に入らないとすぐ咬みつくクセがついてしまった。飼い主に癌が見つかり、引き取り手を探しても、咬みグセと年齢がネックとなり、どこからも引き取りを断られ、兵庫から名古屋のDOG DUCAに。



12歳

病院に連れて行かずガンだらけになった

口元に見てわかるくらい大きな腫瘍があったが、高齢の飼い主が足が悪いということで動物病院に連れて行けず、フードだけ与える状態に。見かねた出張トリマーの依頼で保護。すでに体中に悪性腫瘍が転移しており、手術するも半年で死亡。



推定10歳

引き取った子ども夫婦に放置された

高齢の飼い主がホームに入所することになり、息子夫婦が引き取ったものの、フードだけ与えてサークルの中で放置し、後に飼育放棄。毛も伸び放題で、目の傷が悪化して眼球収縮が起きており、保護後、眼球摘出手術を行いました。



5歳

社会性がないために咬傷事件を起こした

高齢夫婦が番犬にとドーベルマンを購入するも、足を悪くして散歩も連れて行かず、臆病なままに。ゴミ出しの際に脱走し、4人を咬む咬傷事故を起こす。殺処分手前で保護したものの、咬みグセが直らずDOG DUCAで終生飼養し、2023年に死亡。

高齢者と暮らしていた犬の多くは高齢犬で、**里親が見つかりにくく、医療費もかかる**ため、多くの保護施設で引き取りを敬遠されがちです。ここで紹介したのはほんの一例で、これでもまだ誰かが連絡し、連れてこられただけよかったケースですが、**保護されないまま不幸な結果になった犬がいる現実**があることも忘れてはなりません。

🔍 だから… 知っておいてほしいこと

高齢の方が犬と暮らすことは、人間の心身ともにいい影響を及ぼすこともあります。飼い主に万が一があった時の備えないことで、残された愛犬が不幸になることもあります。



よくあるケース①～引き取り手がいない～

飼い主が長期入院や施設入所になってから、関係者が犬の引き取り先を探すことが多い。しかし、それ以前から飼い主が犬の面倒を見られない状態で、犬も高齢で病気を抱えたままになっていることが多い。その結果、引き取り手が見つかりにくい犬になることも。



ゴミ屋敷状態の中で、汚れ放題で放置されることも

よくあるケース②～面倒見てもらえない～

万が一の時、子ども夫婦が引き取るケースが多いものの、普段から疎遠だったり、飼い犬との接触がない場合、犬がなつかなくなったり、吠えたりすることが少なくありません。そのため、愛情が湧かなくなり、病院も散歩も行かず、最終的に飼育放棄することもある。



失明していたが、子ども夫婦が気にもしてなかったことも

よくあるケース③～想定外のことが起こる～

犬も同じように高齢化することで、高額の治療費が発生することもある。貯金がなくて高額の老犬ホームが使えず、引き取り手も見つからないため、限界まで飼い続ける人もいます。ペット不可の公営住宅の建て替え工事のため、立ち退きせざるを得なくなり手放す人も。



子犬を買った人が末期癌の宣告を受けることも

🔍 愛犬のために 飼い主がやっておくこと

犬の寿命は延びており、20年くらい生きる子もいます。同じように年をとった犬の方が残されることも考えて、飼い主さん自身が、愛犬を不幸にさせないための備えが必要です。

愛犬のためのチェックリスト

大切な愛犬を守れるのは飼い主だけです。愛犬のための準備を早め早めにおきましょう。



□ 誰に引き取ってもらおうか決めておく

犬は散歩が必要な生き物です。予め、万が一の時に託せる、散歩ができて動物病院に連れて行ける、信頼できる人を見つけて頼んでおく必要があります。

□ 予め書面に残しておく

動物は法律上「物」で、親類がいる場合は所有権があって保護できないため、飼い犬の身の振り方を書面に残しておく必要があります（口約束は反故にされるケースが多い）。

□ 普段から他人にも馴れさせておく

咬みグセがあると引き取り手が見つかりにくい。甘やかして育てると他人になつかないことも多いため、普段から他の人と触れあい、人間の言うことを聞くようにさせておく必要があります。

□ 必要なものを用意しておく

ワクチン接種証明書など動物病院の書類関係があると、引き取った後の治療がスムーズです。また、保護団体が引き取る場合は、治療費なども含めて数万円の費用が求められるのが一般的です。

□ 早めに手放す覚悟を持っておく

散歩ができない、トリミングサロンや動物病院に連れて行けない時点で、もう継続飼育は不可能です。愛犬が余生を健やかに暮らせるよう、早く次の居場所を見つけてあげましょう。